

# 躍動力フェ（東播磨地域）議事要旨

## 1 概 要

- (1) 日 時：令和7年9月16日（火）13：40～16：40
- (2) 場 所：加古川総合文化センター 2階大会議室（加古川市平岡町新在家1224-7）
- (3) 参加者：齋藤知事、東播磨地域（明石市、加古川市、高砂市、稻美町、播磨町）に在住・在勤等しており、地域づくり、子育て支援、農業など各方面で活躍している25名
- (4) テーマ：人、まち、自然がつながり、地域愛あふれる東播磨へ
- (5) 内 容：
  - グループ別ワークショップ（A～Eグループ）
  - 知事挨拶
  - 意見発表・質疑応答（A～Eグループ）
  - 知事総括コメント

## 2 意見発表の内容

### A つながり支え合う地域づくり

発表者：阪口 努（進行役）

#### 現状と課題：

- 人口減少と税収減を前提に、住民主導で地域づくりを進める必要がある。
- 東播磨地域では地域活動が活発に行われているが、前向きな思いをもって地域で頑張る住民が民設・民営だけで活動を継続することは困難。自立した活動を継続するためには、人・モノ・コトが循環する仕組みが必要。
- 行政と住民とが話し合いを進めるにしても、全てを無報酬で行うには限界がある。

#### 課題解決に向けて：

- 様々な分野で地域のために頑張ろうとする住民からの相談を受け、地域で活動する住民同士や行政との間をつなぐコーディネーター（中間支援者）として、「まちの案内人」を公的施設等へ有償で配置したい。
- 行政や地域の実情を理解している人材を「まちの案内人」とすることで、行政と住民とが直接関係性を築くよりも、円滑に話し合いが進む可能性が高くなる。
- 「まちの案内人」の活動拠点として、空き家や公民館、空きテナントなど地域の空間を利活用する仕組みも構築できれば理想的である。

#### 質疑：

- 東播磨でも地域おこし協力隊は活動しているのか。

#### 応答：

- していない。（「まちの案内人」は、地域おこし協力隊のように地域外からではなく、）自治会など地域内から育成できればと考えている。

## B 子どもを産み育てやすい環境づくり

発表者：濱田 理恵（進行役）

### 現状と課題：

- 核家族化や女性の社会進出、家族以外のつながりの希薄化などを背景に、子育てを家庭内で抱えてしまう傾向にある。
- 子育てには楽しいこともあるが、「子育ては大変」というイメージが強い。親になる前に小さい子どもと接する体験が乏しいこともその要因の一つ。
- ファミリーサポートセンターなどの子育て支援制度の存在や内容を知らない人も多い。

### 課題解決に向けて：

- ファミリーサポートセンターなどの地域団体と連携し、地域の子育て支援者や先輩ママさん等と会えるイベントを開催してはどうか。イベントを通して親同士や地域とのつながりを深め、子育ての楽しさを伝える機会を創出する。
- 子育て支援団体が活動を継続できるよう、行政からは費用面のサポートがあればありがたい。
- 修学旅行費や制服代など、子どもの成長に伴う経済的負担を軽減することができれば、という意見もあった。

### 質疑①：

- 子育てイベントとは、地域で子育て支援をしている団体が実施するのか、それとも地域外の団体を招いて実施するのか。

### 応答：

- 例えば自治会など、地域に根差した団体や住民と子育て世代とをつなぐイメージ。地域内の団体や支援者とつながることで、支援を受けるきっかけや、地域の人と会話するきっかけになり、コミュニティの拡大につながると考える。
- また、子どもが「親が地域の人と楽しそうに関わる姿」を見て育つことで、次世代の子育て力向上にもつなげたい。

### 質疑（知事）②：

- イベントの際にSNSを活用することがあると思うが、効果的な発信方法があれば教えてほしい。

### 応答：

- 自身の団体では、団体の公式LINEやInstagram、ホームページを活用しているが、自治会の回覧板での広報も意外と効果がある。

## C ものづくり産業の担い手確保

発表者：鷲尾 岳（進行役）

### 現状と課題：

- 人手不足の問題よりも、入社後の定着が課題であるという意見があった。ものづくり業界では、技術習得に時間を要するため、一定期間育てた段階で離職されると非常に大きな損失となる。
- 離職の一因である「入社前後の仕事内容や価値観のミスマッチ」を減らす必要がある。また、会社として社員の働きがいをどのようにデザインするのかも課題。

### 課題解決に向けて：

- 地域ぐるみで「ものづくり」に特化したオープンファクトリーイベントを開催したい。製造業は地味でしんどい作業も多いが、それを本気で好きでやっている職人の姿を見てもらい、実際に体験してもらって、「楽しそうだな、面白そうだな、こういうの好きだな」と思ってくれる人を見つける。
- 社長自身が自社の製品や事業に誇りを持ち、会社の魅力や社会的意義を発信することで、将来の担い手を惹きつけるサイクルを構築することが大事。

### 質疑①：

- 地元の中学生・高校生に対し、職場体験の機会を設けるなど、自社での取組事例があれば教えてほしい。

### 応答：

- トライやる・ウィークをきっかけに自社に就職したケースや、自社で何らかの体験をしたことで職業イメージが形成され、他社に就職したケースもある。
- 高校生のキャリアガイダンスとして、製造業の女性のキャリア形成について講義しているほか、小学校の授業の一環として、ワークショップや仕事内容の紹介を行っている。

### 質疑②：

- 広報面ではどのようなアプローチが考えられるか。

### 応答：

- 情報を発信しても十分に届かないという課題がある。行政（高砂市）から発信してもらったり、自社でも、地元小学生を対象にワークショップを行い、仕事内容や地域の産業を知ってもらったりしているが、一緒に発信したいという社長さんはたくさんいると思うので、他社とも一緒に情報発信ができれば。

## D 地域資源を活用した魅力あるまちづくり

発表者：古志 利宗（進行役）

### 現状と課題：

- 東播磨地域は観光客の滞在時間が短く、地域が一体となって滞在時間を延ばす工夫が必要。
- 高齢化により、伝統的な祭りをはじめとする地域活動の担い手が不足しており、運営が困難となっている。若者との接点も限定的で、人材の掘り起こしが難しい状況。
- 東播磨地域は、地域資源のポテンシャルは高いが、十分に伝えられていない。

### 課題解決に向けて：

- LINEなどのSNSを活用して、地域活動に興味のある若者と活動やイベントをマッチングする仕組みを構築し、関係人口の増加を図る。
- 地域活動やイベントへ参加の付加価値として、地域ならではの特別な体験（例：漁協の昼網のセリの裏側見学）の機会の提供や、参加ポイント制などを導入することにより、東播磨地域のファンづくりを促進したい。

### 意見：

- 自身の子育て支援団体では、LINEのオープンチャット機能でボランティアを募集しているが、調整やコーディネートに多大な労力と時間を要している。
- どの分野においても、「無償ボランティア」という在り方は難しく、有償でないと集まりにくい状況。行政による予算面の支援があれば、活動の持続性が高まり、地域活性化にもつながるので、ぜひ検討いただきたい。

## E 農業の持続的な発展

発表者：植田 諒介（進行役）

### 現状と課題：

- 農業従事者の高齢化により農業人口が減少しており、草刈りや溝掃除など農地の維持管理が困難な状況となっている。
- 新規就農者が良質な農地を確保しにくくなってしまっており、歪な形の農地や小さい面積の農地しか得られず、収穫量が上がらないという課題もある。
- 地元の生産物が地元で十分に知られていないこともあり、知名度の向上を図る必要がある。

### 課題解決に向けて：

- 東播磨地域は人口の多い地域に隣接しているという恵まれた立地を活用し、観光農園の設置や生産物の6次産業化など、生産物の付加価値を高める取組を進めることで、農家の所得を増やし、若手や新規就農者などの担い手の新規参入を促したい。

**質疑①：**

- 農業の持続的な発展を目指すに当たり、単に「モノ」を売るだけでなく、体験を通じて商品への愛着を育む「コト」売りをどのように進めるか。

**応答：**

- 花苗の寄せ植え教室や、トライやる・ウィーク、観光農園での体験型の取組等を通じ、農産物への愛着を醸成していきたい。こうした体験は、地元農産物の消費にもつながるため、今後も進めていきたいという意見があった。

**質疑②：**

- 発表内容にあった「6次産業化」とは、広域的な取組なのか、それとも単一でも高収益を見込めるものなのか。具体的なイメージは。

**応答：**

- 自身の場合は、市街地という立地で三代に渡り牧場経営をしている。さまざまなタイミングが重なり、助言を受け、牧場の隣接地でジェラート店を開業した。

### 3 知事総括コメント

- 各グループから、担い手確保や、活動を継続していくための取組や資金面の課題等、多岐にわたるご意見やアイデアをいただいた。県としても、市町ともしっかりと連携しながら、できるだけ多くの皆様の活動を支援できるように頑張っていきたい。
- 今回、活発に質疑応答が交わされていたことが非常に印象的で、地域課題や社会問題への関心の高さが東播磨地域の素晴らしい特色の一つだと感じた。